

令和4年11月19日

第37回熊本アルコール関連問題学会 研究発表

「真和館におけるSBIRTSの推進」

～アルコール専門病院や自助グループに繋げる～

SBIRTSの推進

救護施設 真和館

発表者：指導員 高尾純子





- 開設当初（平成18年4月）、アルコール依存症の方が半分近く入所されたことから、必然的にアルコール依存症について、取り組むことになりました。
- 現在、全入所者**55名のうち、31名がアルコール依存症者**です。





- アルコール依存症は「否認の病気」と言われ、治療につながる事が非常に難しい病気です。
- 真和館（姉妹施設 養護老人ホーム あそ上寿園）では、

**「お酒の悩み相談所」
「福祉の困りごと相談所」**

を開設し、広くアルコール問題等の相談・支援に取り組んでいます。

【令和3年度相談件数】

16名から、48件



S

B I

R T

S

Screening **B**rief **I**ntervention **R**eferral to **T**reatment & **S**elf-help groups

スクリー
ニング

簡易介入

専門医療
への紹介

自助グループ
への紹介

スクリーニングテストを使って飲酒問題の程度を確認

ハイリスク飲酒者には簡単なカウンセリングを行ない、節酒を促す

アルコール依存症の疑いがある場合は、専門医療の受診を勧める

回復のための自助グループにつなげる



S

B I

R T

S

Screening **B**rief **I**ntervention **R**eferral to **T**reatment & **S**elf-help groups

スクリー
ニング

簡易介入

専門医療
への紹介

自助グループ
への紹介

スクリーニングテストを使って飲酒問題の程度を確認

ハイリスク飲酒者には簡単なカウンセリングを行ない、節酒を促す

アルコール依存症の疑いがある場合は、専門医療の受診を勧める

回復のための自助グループにつなげる



S

B I

R T

S

Screening **Brief Intervention** Referral to Treatment & Self-help groups

スクリー
ニング

簡易介入

専門医療
への紹介

自助グループ
への紹介

スクリーニングテストを使って飲酒問題の程度を確認

ハイリスク飲酒者には簡単なカウンセリングを行ない、節酒を促す

アルコール依存症の疑いがある場合は、専門医療の受診を勧める

回復のための自助グループにつなげる



S

B I

R T

S

Screening Brief Intervention Referral to Treatment & Self-help groups

スクリー
ニング

簡易介入

専門医療
への紹介

自助グループ
への紹介

スクリーニングテストを使って飲酒問題の程度を確認

ハイリスク飲酒者には簡単なカウンセリングを行ない、節酒を促す

アルコール依存症の疑いがある場合は、専門医療の受診を勧める

回復のための自助グループにつなげる



S

B I

R T

S

Screening Brief Intervention Referral to Treatment & Self-help groups

スクリー
ニング

スクリーニングテストを使って飲酒問題の程度を確認

簡易介入

ハイリスク飲酒者には簡単なカウンセリングを行ない、節酒を促す

専門医療
への紹介

アルコール依存症の疑いがある場合は、専門医療の受診を勧める

自助グループ
への紹介

回復のための自助グループにつなげる



SBIRTS
お酒の悩みごと相談



事例報告





4月の中旬 隣県在住のA子さんからアルコール依存症の夫・B男さん（60代）の再飲酒の相談がある。





10年前
アルコール依存症と診断され初回入院。

アルコール専門病院へ入院し、
自助グループを紹介され繋がる。

この10年、再飲酒による5回の入退院を繰り返す。
ご自分を恥じ、自助グループ参加ができなくなりました。



再飲酒の度に病状は悪化し、飲酒
すると記憶を失くしてしまうため、
警察に保護されることも…。





相談のあった3ヶ月前に、B男さんは公務員を定年退職される。

そして、退職1ヶ月後に再飲酒をしてしまう。

裏切られたと感じたA子さんは、絶望し、家を出て娘宅に身を寄せることとなる。



「抗酒剤を飲んでるのに、なぜお酒を飲むのか私には理解できません」と不信感をあらわにされるが、「夫は飲酒時と素面の時とでは、まるで別人です。お酒を飲まなければ、私にはもったいないくらいの人です」と涙を流される。

B男さんへの深い愛情がありながらも、「夫からメールが来ますが出ません。娘から放つてとくよう言われ、そのままにしています。でも、夫が死んでしまったらと不安です。」という訴えでした。





断酒をするための努力に協力は惜しまないが、飲酒を継続するための協力は一切しない

Mr

放っておくことと見放すことの違いが分からない…

朝、抗酒剤服用を見守る行為は断酒のためという目的があり、それは良しとする。

共依存とは、自分と特定の相手がその関係性に過剰に依存しており、その人間関係に囚われている関係への嗜癖状態（アディクション）を指す
(wikipediaより)



長女さんに入院を勧めてもらおうことになる。

即入院できるように、アルコール専門病院にあらかじめ相談しておくよう勧める。

◇SBIRTSの問題点◇

本人の治療拒否もありますが、本人を説得し何とか治療の承諾を得ても、直ぐに受診や入院に結び付けられない（受診まで1週間～1ヶ月ほどかかることがある）

事例によっては、真和館の緊急一時救護事業を利用して受診まで飲まずに過ごしていただくこともある。





数日後、B男さんが入院治療を拒否していると報告がある。

ご自宅を訪問し入院治療への介入を行うこととなる。
(最初の相談から9日目)

2ヶ月間飲み続けていたため、B男さんの顔はどす黒く目は血走り、白目は黄色くなり、身体はやせ細り、手はブルブルと震えていた





「入院しなければなりませんか？」とB男さんが最後の抵抗をされる。

離脱期に起きる様々な症状を伝え、アルコール専門病院への入院を強く勧めると、決心したように、「**入院します**」と返答をされた。

決心が揺らぐため、打ち合わせ通り、即、病院へお連れする。





「癌で入院中の母のことを考えると3ヶ月も入院できない」と、飲酒への強い未練が顔を覗かせる。

アルコール専門病院に到着し、問診と検査を行い、入院となった。

1時間後、二人に見送られながら、病院を後にする。





2年後…

当法人主催の「アルコール依存症の地域セミナー」で
A子さんご夫婦と再会する。

自助グループに、夫婦で参加されている。

再就職が決まりました！



ご清聴
ありがとうございました

